

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6717170号
(P6717170)

(45) 発行日 令和2年7月1日 (2020. 7. 1)

(24) 登録日 令和2年6月15日 (2020. 6. 15)

(51) Int. Cl.

F I

B 6 5 D 5/355 (2006. 01)
B 6 5 D 5/10 (2006. 01)
B 6 5 D 5/54 (2006. 01)
B 6 5 D 5/42 (2006. 01)

B 6 5 D 5/355
 B 6 5 D 5/10 H
 B 6 5 D 5/54 3 O 1 B
 B 6 5 D 5/42 F

請求項の数 5 (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2016-223975 (P2016-223975)
 (22) 出願日 平成28年11月17日 (2016. 11. 17)
 (65) 公開番号 特開2018-79962 (P2018-79962A)
 (43) 公開日 平成30年5月24日 (2018. 5. 24)
 審査請求日 平成30年12月27日 (2018. 12. 27)

(73) 特許権者 000122298
 王子ホールディングス株式会社
 東京都中央区銀座4丁目7番5号
 (74) 代理人 100105957
 弁理士 恩田 誠
 (74) 代理人 100068755
 弁理士 恩田 博宣
 (72) 発明者 椎橋 礼子
 東京都中央区銀座五丁目12番8号 王子
 産業資材マネジメント株式会社内

審査官 西山 智宏

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 包装箱

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

小容量形態と大容量形態の2つの形態に変形する包装箱において、
 周方向において接続された4つの側板と、前記4つの側板の各々の底辺に第1下けい線を介して接続された底板とによって構成された箱本体と、
 前記4つの側板のうちの相対する第1側板および第2側板であって、前記第1側板の上辺に第1上けい線を介して接続された第1上板および前記第2側板の上辺に接続された第2上板とを備え、
 前記第1上板は、前記第1上けい線よりも先端側に前記第1上けい線と平行な第2上けい線を備え、
 前記第2上板は、先端部に、差込片を備え、
 前記4つの側板は、前記第1下けい線に対して平行な第2下けい線を備え、
 前記第1側板は、前記第1上けい線と前記第2下けい線との間に、前記差込片が差し込まれる差込孔を備え、
 前記4つの側板のうちの前記第1側板および第2側板以外の相対する第3側板および第4側板の各々は、前記第3側板および前記第4側板における前記第2下けい線の両端部から前記第1上けい線の方に向かって幅が狭くなるように延びる折込けい線を備え、
 前記小容量形態では、前記第1上板が、前記第2上けい線を介して、前記第1側板の内面と重なるように折り返され、前記第1上板の先端部が前記第2下けい線の上側に位置され、前記第3側板および前記第4側板が前記折込けい線および前記第2下けい線を介して

10

20

前記箱本体の内側に向けて折り込まれ、前記第 1 側板および前記第 2 側板が前記第 2 下けい線を介して折り込まれた前記第 3 側板および前記第 4 側板の上に重なるように折り曲げられ、前記第 2 上板の先端部が前記第 2 下けい線で折り曲げられた前記第 1 側板に対して上側に位置され、前記差込孔に対して前記差込片が差し込まれ、かつ、

前記第 1 上板を前記第 2 上けい線を介して前記第 1 側板の方向に折り返した折り返し部分は、

前記折込けい線および前記第 2 下けい線を介して折り込まれた前記第 3 側板および前記第 4 側板のうちの上側に位置する折込部と、前記折込部の上に重なる前記第 2 側板との間に構成される袋部に挿入されない長さであり、

前記大容量形態では、前記第 1 側板および第 2 側板、ならびに、前記第 3 側板および前記第 4 側板が展開され、前記第 1 上板および前記第 2 上板が前記第 1 上けい線を介して折り曲げられる

包装箱。

【請求項 2】

前記 4 つの側板は、縦けい線を介して接続されており、

前記折込けい線と前記第 2 下けい線と前記縦けい線との交点には、孔が形成されている

請求項 1 に記載の包装箱。

【請求項 3】

前記差込片は、前記第 2 上板に対する切取線を介して前記第 2 上板の先端部に接続されている

請求項 1 または 2 に記載の包装箱。

【請求項 4】

前記小容量形態において、前記第 1 上板の先端部は、前記第 1 側板の内面において、前記第 2 下けい線に対して沿って位置する

請求項 1 ないし 3 のうち何れか 1 項に記載の包装箱。

【請求項 5】

前記 4 つの側板は、縦けい線を介して接続されており、

前記折込けい線および前記縦けい線の少なくとも一方は、けい線と切れ線を交互に入れたリード罫上に貫通孔を設けたけい線である

請求項 1 ないし 4 のうち何れか 1 項に記載の包装箱。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、包装箱に関する。

【背景技術】

【0002】

特許文献 1 には、顧客の手元にあるもの（ここでは返送品）を企業に返送する際に、企業から顧客に配送される包装箱は記載されている。この包装箱は、企業から顧客に発送する場合（往路の場合）、小容量に折り畳まれた小容量形態の状態で使用され、顧客から企業に返送する場合（復路の場合）、返送品を封入するために、大容量形態の状態で展開されて使用される。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2014 - 46982 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

この種の包装箱にあっては、容易に小容量形態に折り畳むことができるように、作業性を向上させることが望まれている。

10

20

30

40

50

【 0 0 0 5 】

本発明は、折り畳み作業の手間を簡素化することを可能とした包装箱を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 6 】

上記課題を解決するための包装箱は、小容量形態と大容量形態の2つの形態に変形する包装箱において、周方向において接続された4つの側板と、前記4つの側板の各々の底辺に第1下けい線を介して接続された底板とによって構成された箱本体と、前記4つの側板のうちの相対する第1側板および第2側板であって、前記第1側板の上辺に第1上けい線を介して接続された第1上板および前記第2側板の上辺に連設された第2上板とを備える。前記第1上板は、前記第1上けい線よりも先端側に前記第1上けい線と平行な第2上けい線を備え、前記第2上板は、先端部に、差込片を備える。前記4つの側板は、前記第1下けい線に対して平行な第2下けい線を備え、前記第1側板は、前記第1上けい線と前記第2下けい線との間に、前記差込片が差し込まれる差込孔を備える。前記4つの側板のうちの前記第1側板および第2側板以外の相対する第3側板および第4側板の各々は、前記第3側板および前記第4側板における前記第2下けい線の両端部から前記第1上けい線の方

10

20

方向に向かって幅が狭くなるように延びる折込けい線を備える。前記小容量形態では、前記第1上板が、前記第2上けい線を介して、前記第1側板の内面と重なるように折り返され、前記第1上板の先端部が前記第2下けい線の上側に位置され、前記第3側板および前記第4側板が前記折込けい線および前記第2下けい線を介して前記箱本体の内側に向けて折り込まれ、前記第1側板および前記第2側板が前記第2下けい線を介して折り込まれた前記第3側板および前記第4側板の上に重なるように折り曲げられ、前記第2上板の先端部が前記第2下けい線で折り曲げられた前記第1側板に対して上側に位置され、前記差込孔に対して前記差込片が差し込まれる。前記大容量形態では、前記第1側板および第2側板、ならびに、前記第3側板および前記第4側板が展開され、前記第1上板および前記第2上板が前記第1上けい線を介して折り曲げられる。

【 0 0 0 7 】

上記構成によれば、第1上板を第2上けい線で箱本体の内側に折り込み、差込片を差込孔に差し込むだけで、小容量形態の包装箱を組み立てることができ、組立作業を効率化することができる。

【 0 0 0 8 】

上記包装箱において、前記差込片は、前記第2上板に対する切取線を介して前記第2上板の先端部に連設されている構成としてもよい。

上記構成によれば、差込片を切取線で切り取るだけで、小容量形態から大容量形態に容易に展開することができる。

【 0 0 0 9 】

上記包装箱において、前記小容量形態において、前記第1上板を前記第2上けい線を介して前記第1側板の方向に折り返した折り返し部分は、前記折込けい線および前記第2下けい線を介して折り込まれた前記第3側板および前記第4側板のうちの上側に位置する折込部と、前記折込部の上に重なる前記第2側板との間に構成される袋部に挿入されない長さとしてもよい。

【 0 0 1 0 】

上記構成によれば、小容量形態において、第1上板を第2上けい線を介して第1側板の方向に折り返した折り返し部分は、袋部には挿入されない。したがって、折り返し部分が長く、折り返し部分を袋部には挿入しなければならない場合より組み立て作業が容易となる。

【 0 0 1 1 】

上記包装箱において、前記小容量形態において、前記第1上板の先端部は、前記第1側板の内面において、前記第2下けい線に対して沿って位置する構成としてもよい。

上記構成によれば、小容量形態にするため、第2下けい線で第1側板から第4側板を折

10

20

30

40

50

り曲げる際、第1上板の先端部を折り曲げのガイドにを使って、容易に折り曲げることができる。

【0012】

上記包装箱において、けい線と切れ線を交互に入れたリード罫上に貫通孔を設けたけい線としてもよい。

上記構成によれば、容易に小容量形態に変形することができる。

【発明の効果】

【0013】

本発明によれば、折り畳み作業の手間を簡素化することを可能とした。

【図面の簡単な説明】

10

【0014】

【図1】一実施形態における包装箱を示す図であって、小容量状態を示す斜視図。

【図2】一実施形態における包装箱を示す図であって、大容量状態を示す斜視図。

【図3】包装箱の展開図。

【図4】箱本体に対して第1上板と第2上板とが開かれた状態を示す斜視図。

【図5】第1上板を第1側板の内側に折り込んだ状態を示す斜視図。

【図6】第3側板と第4側板とを折込けい線で内側に折り込んでいる状態を示す斜視図。

【図7】小容量形態から大容量形態に変形する際に、差込片を第2上板から切除した状態を示す斜視図。

【発明を実施するための形態】

20

【0015】

以下、本発明の一実施の形態を説明する。

図1に示すように、本発明を適用した包装箱1は、段ボール箱であって、薄箱形状の小容量形態の状態に折り畳まれる。また、図2に示すように、包装箱1は、小容量形態の状態から大容量形態に展開される。このような包装箱1は、一例として、顧客の手元にあるもの（ここでは返送品）を企業に返送する際に使用される。具体的には、この包装箱1は、企業から顧客に発送する場合（往路の場合）、小容量形態の状態で使用され、顧客から企業に返送する場合（復路の場合）、返送品を封入するために、大容量形態に展開され使用される。

【0016】

30

図3は、包装箱1の展開図であり、包装箱1のブランクシート2を示す。ブランクシート2は、箱本体10の側面を構成する第1側板11、第2側板12、第3側板13、および、第4側板14を備えている。これらの側板11～14は、周方向に、第1側板11、第3側板13、第2側板12、第4側板14の順に、縦けい線15を介して接続されている。なお、第1側板11と第3側板13との間の縦けい線15および第2側板12と第4側板14との間の縦けい線15は、一例として、けい線と切れ線を交互に入れたリード罫上に、さらに貫通孔18を設けて折り曲げ易くしたけい線である。第1側板11と第2側板12とは、互いに対向する長板であり、第3側板13と第4側板14とは、互いに対向する短板である。第1側板11は、縦けい線15と平行な側縁にけい線16aを介して継ぎ代16を備えている。このけい線も、一例として、リード罫上に、さらに貫通孔18を設けたけい線である。継ぎ代16は、第4側板14に対して、接着剤やステーブルや粘着テープといった接合手段によって接合される。

40

【0017】

第1側板11の上辺には、第1上けい線20を介して第1上板21が接続されている。第1上板21には、第1上けい線20と平行な第2上けい線29を備えている。第2上けい線29は、一例として、第1上板21の縦方向寸法の中央を通り横方向に延びる中心線C1と第1上けい線20との間に設けられる。第2側板12の上辺には、第1上けい線20を介して第2上板22が接続されている。第2上板22は、第1上板21に対して短いフラップである。第2上板22の先端部は、横方向の中央部に差込片23が接続されている。差込片23は、第2上板22の先端部に対して突出し、差込片23の基端部には、ミ

50

シン野などの切取線 24 が設けられている。一例として、差込片 23 は、小容量形態の状態から大容量形態の状態に変形する際に切取線 24 から切除される。差込片 23 の基端部において、切取線 24 の両端部には、段差によって係止部 25 が設けられている。差込片 23 は、第 1 側板 11 において、第 1 上けい線 20 と第 2 下けい線 35 との間に形成された差込孔 28 に差し込まれる。係止部 25 は、差込孔 28 の両端部に係止される。係止部 25 は、少量形態の状態に組み立てるとき、差込片 23 を差込孔 28 に差し込むことを許容し、差込片 23 が差込孔 28 に差し込まれた状態から抜けることを阻止する。

【0018】

第 3 側板 13 および第 4 側板 14 の上辺には、上フラップ 26, 27 が接続されている。上フラップ 26, 27 は、第 1 上板 21 や第 2 上板 22 に対して縦方向が短いフラップである。

10

【0019】

第 1 側板 11 の底辺には、第 1 底板 31 が第 1 下けい線 30 を介して接続されている。第 1 底板 31 の先端部は、横方向の中央部に係合片 31a を備えている。第 2 側板 12 の底辺には、第 2 底板 32 が第 1 下けい線 30 を介して接続されている。第 2 底板 32 の先端部は、横方向の中央部に係合凹部 32a を備えている。第 1 底板 31 と第 2 底板 32 は、外フラップであり、係合片 31a と係合凹部 32a とを係合させることによって箱本体 10 の底面を構成する。第 3 側板 13 の底辺には、第 3 底板 33 が第 1 下けい線 30 を介して接続されている。第 4 側板 14 の底辺には、第 4 底板 34 が第 1 下けい線 30 を介して接続されている。第 3 底板 33 と第 4 底板 34 とは、一例として、内フラップである。また、第 3 底板 33 と第 4 底板 34 とは、突き合わせフラップであり、小容量形態および大容量形態の何れの場合であっても箱本体 10 の形状を変形しにくくする。また、突き合わせフラップとすることで内面が平坦となり、包装した内容物を傷つきにくくなる。

20

【0020】

第 1 側板 11、第 2 側板 12、第 3 側板 13、および、第 4 側板 14 は、第 1 下けい線 30 に対して平行な第 2 下けい線 35 を備えている。第 2 下けい線 35 は、第 1 上けい線 20 より第 1 下けい線 30 の近くに位置している。第 1 下けい線 30 と第 2 下けい線 35 との間の領域は、小容量形態のとき、側面を構成する。

【0021】

第 3 側板 13 および第 3 側板 13 に接続した上フラップ 26、ならびに、第 4 側板 14 および第 4 側板 14 に接続した上フラップ 27 は、これらを箱本体 10 の内側に折り込むための折込けい線 36 を備えている。折込けい線 36 は、第 3 側板 13 および第 4 側板 14 における第 2 下けい線 35 の両端部から第 1 上けい線 20 の方向に向かって幅が狭くなり、上フラップ 26, 27 の先端部で離間している。また、折込けい線 36 は、第 3 側板 13 および第 3 側板 13 の横方向中央を縦方向に延びる中心線を対象軸として線対称に延びている。すなわち、2 つの折込けい線 36 は、第 2 下けい線 35 に対して末広がりの逆 V 字形状を有している。第 2 下けい線 35 に対して末広がりの 2 本の折込けい線 36 がなす角度は一例として 45 度である。また、折込けい線 36 は、一例として、けい線と切れ線を交互に入れたリード野上に、さらに貫通孔 19 を設けて折り曲げ易くしたけい線である。また、折込けい線 36 と第 2 下けい線 35 と縦けい線 15 との交点には、シートが重なる部分において、折り曲げやすくするため、孔 17 が形成されている。なお、同様の孔 17 が第 2 下けい線 35 とけい線 16a との交点にも形成されている。

30

40

【0022】

次に、以上のように構成された包装箱 1 の組立方法および使用方法について説明する。

まず、継ぎ代 16 が第 4 側板 14 の内面に対して、接合手段によって接合され環状形状とされる。次いで、箱本体 10 の底面を構成するため、第 3 底板 33 および第 4 底板 34 を第 1 下けい線 30 から内側に折り曲げ、さらに、第 1 底板 31 と第 2 底板 32 とを第 1 下けい線 30 から内側に折り曲げる。そして、係合片 31a を係合凹部 32a に係合する。図 4 に示すように、これにより、上面が第 1 上板 21 と第 2 上板 22 とによって塞がれていない開放された状態の箱本体 10 が構成される。

50

【 0 0 2 3 】

図 5 に示すように、包装箱 1 を小容量状態に折り畳むには、第 1 上板 2 1 を第 2 上けい線 2 9 を介して第 1 側板 1 1 の内面に重なるように折り返す。そして、第 1 上板 2 1 の先端部は、第 1 側板 1 1 の内面において、第 2 下けい線 3 5 に対して近接し、第 2 下けい線 3 5 に対して沿って位置する。次いで、図 6 に示すように、第 3 側板 1 3 および第 4 側板 1 4 を逆 V 字形状を有する折込けい線 3 6 および第 2 下けい線 3 5 に沿って箱本体 1 0 の内側に折り込む。すると、第 3 側板 1 3 および第 4 側板 1 4 のうちの上側に位置する折込部 3 7 と折込部 3 7 の上に重なる第 2 側板 1 2 との間には、袋部 3 8 が構成される。また、第 1 側板 1 1 および第 2 側板 1 2 は、第 2 下けい線 3 5 から箱本体 1 0 の内側に向けて折り曲げられる。第 1 上板 2 1 を第 2 上けい線 2 9 を介して第 1 側板 1 1 の方向に折り返した折り返し部分 3 9 は、袋部 3 8 には挿入されない長さである。この後、折り返し部分 3 9 に対して第 2 上板 2 2 が上側に位置し、差込片 2 3 が差込孔 2 8 に挿入され、箱本体 1 0 が第 1 上板 2 1 と第 2 上板 2 2 とによって閉じられた状態にロックされる。かくして、包装箱 1 は、小容量形態の状態とされる（図 1 参照）。小容量形態の状態とされた包装箱 1 は、第 1 下けい線 3 0 と第 2 下けい線 3 5 との間の領域が側面を構成した薄型の箱となる。このような小容量形態の包装箱 1 は、一例として企業から顧客に発送する場合（往路の場合）に使用される。

10

【 0 0 2 4 】

顧客は、小容量形態の包装箱 1 が手元に届くと、手元にあるもの（ここでは返送品）を企業に返送する。このため、顧客は、小容量形態の状態にある包装箱 1 を大容量形態の包装箱 1 に展開する（図 2 参照）。この場合、先ず、差込孔 2 8 に差し込まれた状態にある差込片 2 3 を切取線 2 4 で切除する。これにより、第 2 上板 2 2 のロックが解除される。図 7 に示すように、第 2 上板 2 2 が箱本体 1 0 の上面を開き、次いで、第 1 上板 2 1 が第 1 側板 1 1 の内面に重なるように折り込まれた状態から箱本体 1 0 の外に出された状態とされる。これと連続的に、第 1 側板 1 1 および第 2 側板 1 2 は、第 2 下けい線 3 5 が外側に開かれ、第 3 側板 1 3 および第 4 側板は、折込けい線 3 6 および第 2 下けい線 3 5 が開かれる。かくして、第 1 側板 1 1 から第 4 側板 1 4 の全体がほぼ面一の状態となり、箱本体 1 0 の側面を構成する。この状態で、箱本体 1 0 の中には、企業に返送するものが収納される。この後、上フラップ 2 6 , 2 7 が第 1 上けい線 2 0 で箱本体 1 0 の内側に向けて折り曲げられる。そして、第 2 上板 2 2 が第 1 上けい線 2 0 で箱本体 1 0 の内側に向けて折り曲げられ、第 1 上板 2 1 が第 1 上けい線 2 0 で箱本体 1 0 の内側に向けて折り曲げられる。ここで、第 1 上板 2 1 と第 2 上板 2 2 の何れが上側となってもよい。そして、互いに重ねられた第 1 上板 2 1 の先端部と第 2 上板 2 2 とは、粘着テープといった接合手段 4 0 によって接合される（図 2 参照）。接合手段 4 0 としてはステーブルなどであってもよい。そして、大容量形態の包装箱 1 は、企業に対して発送される。

20

30

【 0 0 2 5 】

以上説明したように、上記実施の形態によれば、以下の効果が得られる。

（ 1 ）第 1 上板 2 1 を第 2 上けい線 2 9 で箱本体 1 0 の内側に折り込み、折込けい線 3 6 および第 2 下けい線 3 5 に沿って箱本体 1 0 の内側に折り込み、差込片 2 3 を差込孔 2 8 に差し込むだけで、小容量形態の包装箱 1 を組み立てることができ、組立作業を効率化することができる。

40

【 0 0 2 6 】

（ 2 ）包装箱 1 は、差込片 2 3 を切取線 2 4 で切り取り、折込けい線 3 6 および第 2 下けい線 3 5 で第 3 側板 1 3 および第 4 側板を開き、第 2 下けい線 3 5 で第 1 側板 1 1 および第 2 側板 1 2 を開くだけで、小容量形態から大容量形態に容易に展開することができる。

（ 3 ）小容量形態において、第 1 上板 2 1 を第 2 上けい線 2 9 を介して第 1 側板 1 1 の方向に折り返した折り返し部分 3 9 は、袋部 3 8 には挿入されない。したがって、折り返し部分 3 9 が長く、折り返し部分 3 9 を袋部 3 8 には挿入しなければならない場合より組み立て作業が容易となる。

50

【 0 0 2 7 】

(4) 小容量形態において、第 1 上板 2 1 の先端部は、第 1 側板 1 1 の内面において、第 2 下けい線 2 9 に対して沿って位置する。したがって、小容量形態にするため、第 2 下けい線 3 5 で第 1 側板 1 1 から第 4 側板 1 4 を折り曲げる際、第 1 上板 2 1 の先端部を折り曲げのガイドに使って、容易に折り曲げることができる。

(5) 折込けい線 3 6 は、けい線と切れ線を交互に入れたリード罫上に、さらに貫通孔 1 9 を設けて折り曲げ易くしたけい線であるため、容易に小容量形態に変形することができる。

【 0 0 2 8 】

なお、上記実施の形態は、以下のように変更して実施することもできる。

10

・折込けい線 3 6 の構成は特に限定されるものではなく、例えば、貫通孔を設けていない通常のリード罫であってもよいし、リード罫ではなく、ミシン罫であってもよいし、通常のけい線であってもよい。また、折込けい線 3 6 以外のけい線の構成も、特に限定されるものではない。

【 0 0 2 9 】

・第 1 上板 2 1 の先端部は、第 1 側板 1 1 の内面において、第 2 下けい線 3 5 から離れていてもよい。

・小容量形態において、袋部 3 8 に折り返し部分 3 9 を挿入する作業が煩雑にならない程度に、折り返し部分 3 9 は、袋部 3 8 に若干入る程度の長さを有していてもよい。

・差込片 2 3 は、第 2 上板 2 2 から切除されなくてもよい。また、差込片 2 3 は、ハサミやヤカッタなどで切除してもよいし、手で破るようにして切除してもよい。

20

【 0 0 3 0 】

・包装箱 1 は、上フラップ 2 6 が省略されていてもよい。

・箱本体 1 0 の底面構造は、特に限定されるものではなく、係合片 3 1 a と係合凹部 3 2 a の係合構造を備えていないものであってもよい。例えば、相対する 2 枚の内フラップと相対する 2 枚の外フラップとで構成し、外フラップの突き合わせ部を接合手段で接合する構造であってもよい。

・包装箱 1 は、段ボールではなく厚紙などで構成されていてもよい。

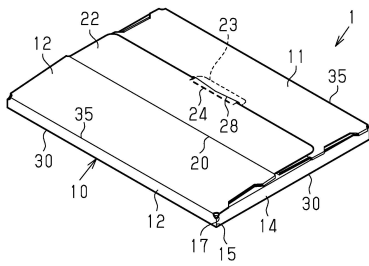
【 符号の説明 】

【 0 0 3 1 】

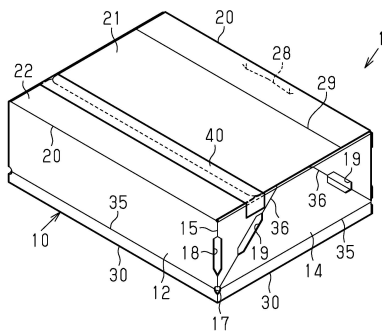
30

C L ... 中心線、1 ... 包装箱、2 ... ブランクシート、1 0 ... 箱本体、1 1 ... 第 1 側板、1 2 ... 第 2 側板、1 3 ... 第 3 側板、1 4 ... 第 4 側板、1 5 ... 縦けい線、1 6 ... 継ぎ代、1 6 a ... けい線、1 7 ... 孔、1 8 ... 貫通孔、1 9 ... 貫通孔、2 0 ... 第 1 上けい線、2 1 ... 第 1 上板、2 2 ... 第 2 上板、2 3 ... 差込片、2 4 ... 切取線、2 5 ... 係止部、2 6 ... 上フラップ、2 7 ... 上フラップ、2 8 ... 差込孔、2 9 ... 第 2 上けい線、3 0 ... 第 1 下けい線、3 1 ... 第 1 底板、3 1 a ... 係合片、3 2 ... 第 2 底板、3 2 a ... 係合凹部、3 3 ... 第 3 底板、3 4 ... 第 4 底板、3 5 ... 第 2 下けい線、3 6 ... 折込けい線、3 7 ... 折込部、3 8 ... 袋部、3 9 ... 折り返し部分、4 0 ... 接合手段。

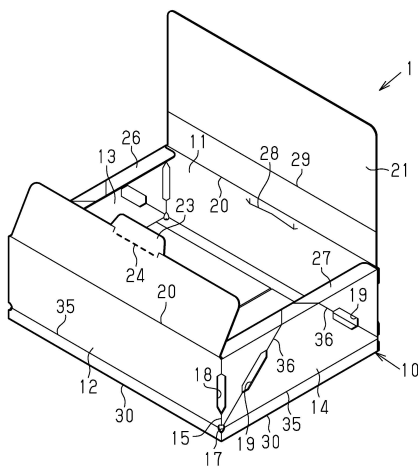
【図 1】



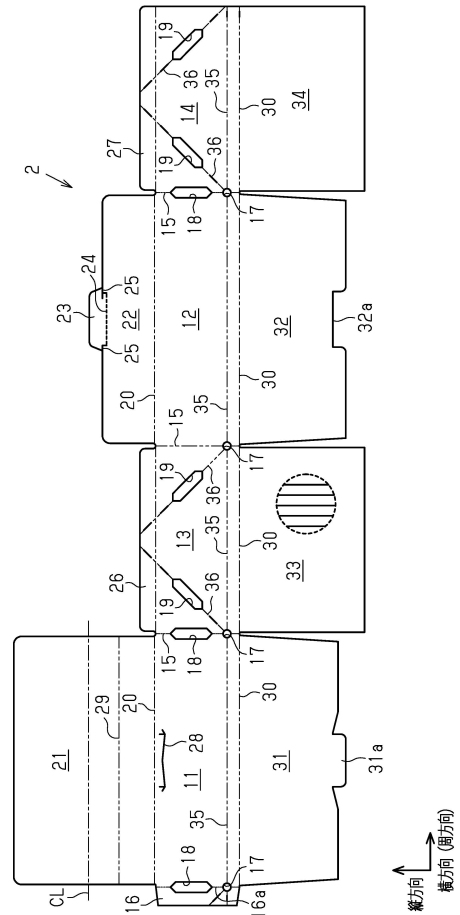
【図 2】



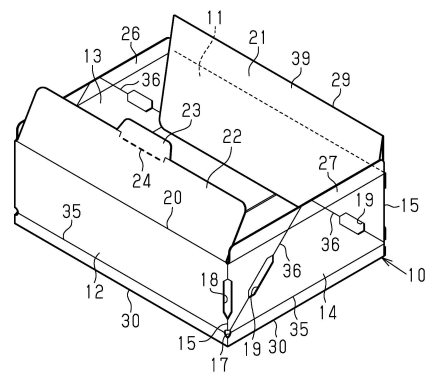
【図 4】



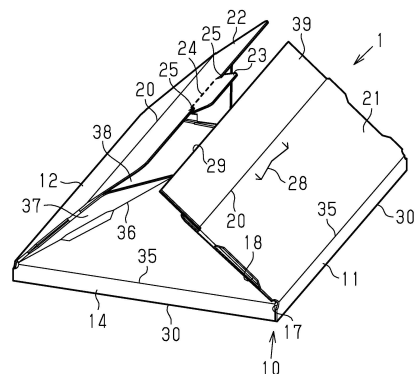
【図 3】



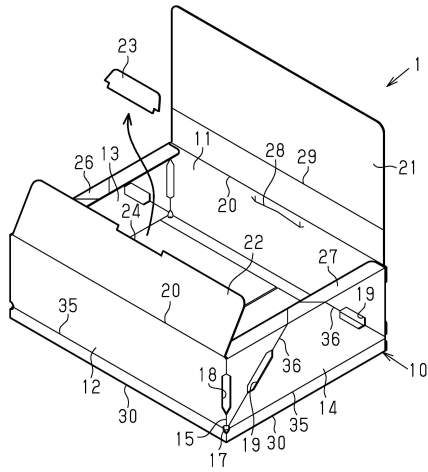
【図 5】



【図 6】



【図7】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開 2 0 1 4 - 0 4 6 9 8 2 (J P , A)
特開 2 0 0 7 - 2 7 6 8 4 5 (J P , A)
登録実用新案第 3 1 6 3 3 1 5 (J P , U)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)
B 6 5 D 5 / 0 0 - 5 / 7 6